

経済・金融フラッシュ

No.07-058 2007/08/22

貿易統計 07年7月～貿易収支は9カ月ぶりに悪化

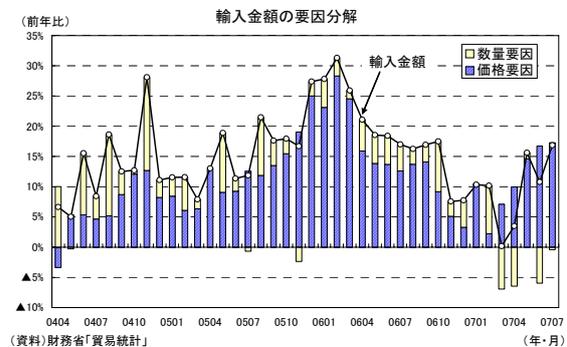
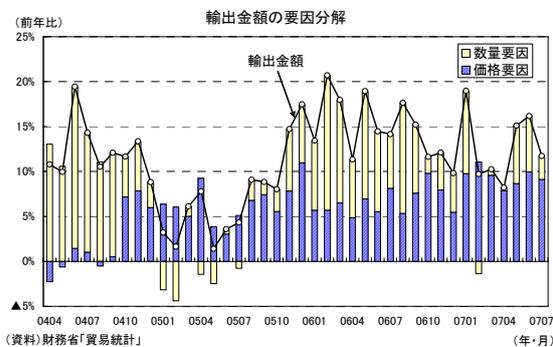
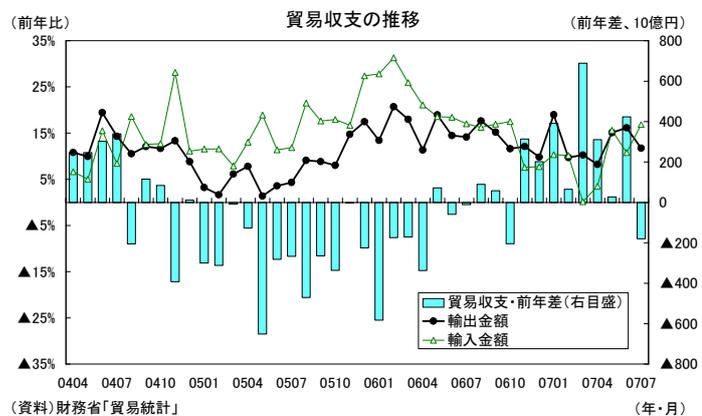
ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は9カ月ぶりに悪化

財務省が8月22日に公表した貿易統計によると、7月の貿易黒字は6,712億円（前年比▲21.1%）となり、事前の市場予想（ロイター集計：7,649億円、当社予想も7,649億円）を若干下回った。原油価格の高騰などにより、輸入の伸びが輸出の伸びを上回ったことから、貿易収支は9カ月ぶりに前年よりも悪化した。

輸出価格は前年比9.0%（6月：同9.7%）と高めの伸びを維持したが、輸出数量が前年比2.5%と6月の同5.9%から伸びが鈍化したため、輸出金額は前年比11.7%と6月の同16.2%から伸びが低下した。一方、輸入価格は前年比17.3%（6月：同17.2%）と大幅な上昇を続ける中、輸入数量が前年比▲0.4%と6月の同▲5.5%からマイナス幅が縮小したため、前年比16.9%と6月の同10.8%から伸びが大きく高まった。



2. 自動車輸出の伸びが半減

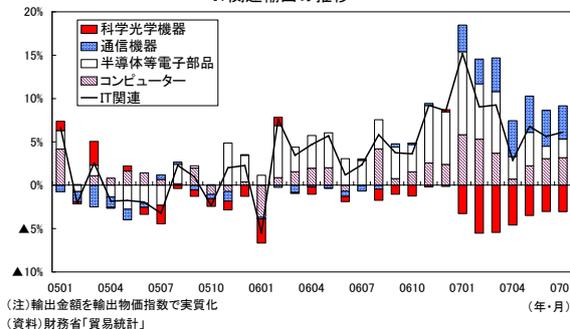
輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、科学光学機器は前年比▲12.8%と引き続き大幅な減少となったが、コンピューター（同 20.5%）、半導体電子部品（同 7.9%）、通信機（同 93.0%）等が高い伸びとなり、全体では堅調を維持した。国内では、電子部品・デバイスの在庫積み上がりが続いているが、IT 関連輸出の増加は在庫調整の進展を後押しする要因となろう。

自動車輸出は前年比 12.8%と 6 月の同 24.6%から伸びが半減した。EU 向け（前年比 15.7%）、アジア向け（同 21.3%）は二桁の伸びを維持したが、米国の自動車販売不振の影響を受けて、米国向けが前年比▲1.3%と 3 ヶ月ぶりに減少に転じた。

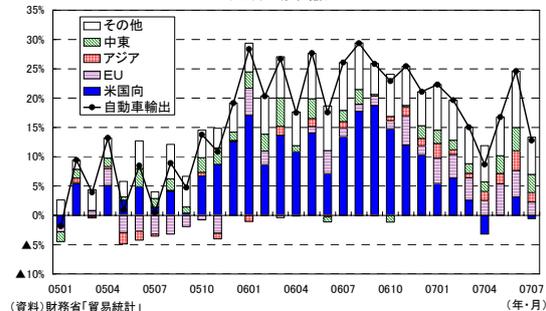
7/16 に発生した新潟県中越地震では、自動車部品の大手メーカーが被災し、操業停止に追い込まれたことから、自動車メーカー各社の生産ラインが一時的にストップした。7 月の自動車輸出は米国向け以外の地域では増加基調を維持したが、6 月に比べると伸び率は低下しており、国内減産による影響が輸出にも一部表れているものと考えられる。

7 月下旬には、自動車部品メーカーは通常稼動に戻っており、自動車生産も再開されている。このため、地震の影響が長期化するリスクは低いと考えられるが、自動車輸出の減速が一時的なものにとどまるかどうかは、8 月の貿易統計を確認する必要がある。

(実質・前年比) IT関連輸出の推移



(前年比) 地域別自動車輸出



3. 米国向け輸出の減少幅が再拡大

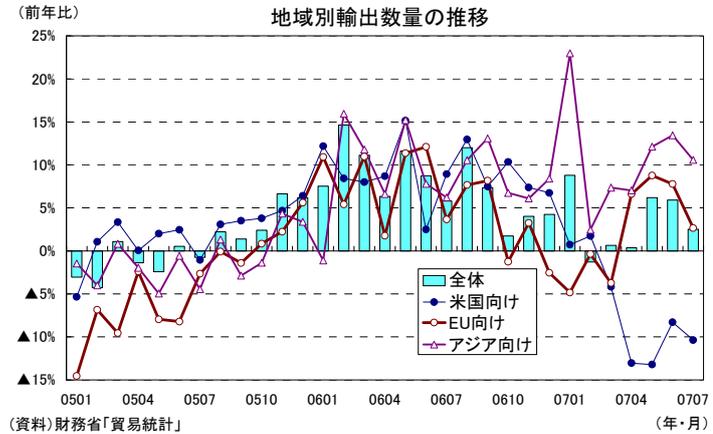
輸出数量を地域別に見ると、アジア向けは前年比 10.6%（6 月：同 13.4%）と二桁の伸びを維持したが、EU 向けが前年比 2.7%（6 月：同 7.8%）と伸びが低下し、6 月には若干の持ち直しを見せた米国向けが前年比▲10.4%（6 月：同▲8.3%）とマイナス幅が再拡大した。

米国の実質 GDP 成長率は、1-3 月期の前期比年率 0.6%から、4-6 月期には同 3.4%とリバウンドしたが、GDP の約 7 割を占める個人消費は、前期比年率 1.3%と 1-3 月期の同 3.7%から大きく低下した。GDP 成長率は加速したものの、日本からの輸出に大きな影響を及ぼす国内最終需要（GDP - 純輸出 - 在庫投資）は、1-3 月期の前期比年率 1.7%に続

き、4-6 月期も同 1.9%と低い伸びにとどまった。

7-9 月期の米国の個人消費は、4-6 月期に比べれば持ち直すものの、ガソリン価格が高水準にあることや、株価下落の影響もあって、伸び悩みが予想され、住宅投資の大幅減少も継続するだろう。

4-6 月期の外需は輸出の減速から、前期比 0.0%（寄与度）とほぼ横ばいにとどまったが、米国向け輸出の停滞が輸出全体を下押しする展開がしばらく続く可能性が高いため、7-9 月期も外需が成長率を大きく押し上げることは期待しにくいだろう。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)